

クローズアップ!! 医療機関の“今”

専門領域に特化した医療を担い、地域完結の体制を築く

福島県立医科大学会津医療センター附属病院 (福島県)

「地域完結型医療」を掲げ、平成25年5月にスタートした福島県立医科大学会津医療センター附属病院。へき地医療の支援、地域に不足する診療科の設置、専門領域に特化した高度医療の提供に取り組んでいます。高齢化の進行を見据えた地域医療のあり方や、今後の展望について、鈴木啓二院長に伺いました。



病院内機関としては全国でも稀少な「漢方医学センター」。会津地方に古くから伝わる薬用人参をはじめ、数多くの生薬を取りそろえ、煎じる漢方薬を処方しています。

今回の病院 **福島県立医科大学 会津医療センター附属病院**

平成25年5月に、県立会津総合病院と県立喜多方病院を統合して誕生した「福島県立医科大学会津医療センター附属病院」は、会津地方の中核病院として「地域完結型医療」の提供を目指しています。へき地医療への取り組み、地域ニーズに合った診療科の設置、専門領域に特化した医療の提供などに力を入れています。



所在地：福島県会津若松市河東町谷沢字前田21-2
開設：平成25年5月
病床数：226床
診療科：総合内科、漢方内科、漢方外科、循環器内科、血液内科、消化器内科、糖尿病・代謝・腎臓内科、感染症・呼吸器内科、神経内科、心身医療科、外科、小腸・大腸・肛門科、整形外科・脊髄外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科、リハビリテーション科、緩和ケア科、心臓血管外科
*院内標榜の診療科を含む

www.fmu.ac.jp/amc/

地域で真に求められる医療の提供を目指して

「福島県立医科大学会津医療センター附属病院」は、福島県西部の会津若松、喜多方、南会津を中心とした、約28万人規模の医療圏の中核病院として開設されました。地域に深く根ざすこの病院の特徴を、鈴木啓二院長に改めて伺いました。

「当院は『地域完結型医療』、すなわち会津地方という地域単位で全分野の医療を提供することをスローガンにしてきました。他の病院や医療機関と連携する中で、当院が担っているのは専門領域に特化した医療です。これまでこの地域に不足していた診療科の新設や、地域特性に深く関わる既存診療科

病院近くの畑で栽培されている薬用人参。地元農家の方の手で日々丹念に育てられています。



「漢方医療は、漢方薬を煎じて服用しました。漢方医学は、漢方薬を煎じて服用

の強化を図っています」(鈴木院長) これまで会津地方になかった血液内科の開業や、地域高齢者に多い脊髄関連の疾患に対応できる整形外科の強化、がん患者に快適な療養環境を提供する緩和ケア病棟の新設など、地域で真に必要なとされている医療の充実に取り組んでいます。低侵襲の検査治療にも注力し、消化器疾患等ではCT撮影を3D化して診断する最新技術が活用されています。

「鍼灸」と、針や灸で働きかける「湯液」の2つで成り立ちます。当センターには専任の医師や鍼灸師が所属し、現代医学のみでは改善しきれない症状の改善に取り組んでいます。たとえば、手術後の体調回復を湯液でサポートしたり、化学療法による痺れを鍼灸で改善するなど、「湯液」と「鍼灸」で連携しながら診療を行っています」(三浦教授)

「現代医学と違った視点からも症状の改善に取り組む」 福島県立医科大学会津医療センター附属病院のもう一つの大きな特徴として、現代医学とは別の観点から患者さんへのサポートを行う「漢方医学センター」の存在が挙げられます。センターの特徴を漢方医学講座の三浦忠道教授に伺いました。

漢方医学で「湯液」と相補関係を持つ「鍼灸」。外来鍼灸診療を担う鍼灸部では、専門鍼灸師の受診および治療を受けることができます。



開設にあたって導入された320列マルチスライスCT。内視鏡を挿入せず大腸を診断できる「大腸3D-CT検査」が可能です。

病院運営の最前線

地域の中核として「医療」「教育」「研究」に取り組み、在宅支援にも注力



院長 鈴木 啓二さん

当院の母体である「福島県立医科大学会津医療センター」は、附属病院での医療提供に加え、教育、研究機関としての役割も担っています。患者さんに満足いただける医療を提供し続けるためにも、教育による医療人材の育成と、研究による質の向上は大変重要と考えています。教育面では、臨床研修病院として研修医の受け入れ・育成に注力しており、充実した実習環境を求めて、毎年多くの熱意ある研修医が集まっています。研究面では、湯液や鍼灸の臨床効果を追究する「漢方医学研究室」、疾病の予防法や診断・治療法の改善を研究する「臨床疫学研究室」、他大学や企業と共同で研究し医療機器や治療法の開発を目指す「医療工学研究室」などを設け、医療のさらなる質の向上に日々邁進しています。

在宅療養も視野に入れた切れ目のない医療を

会津地方の高齢化率は非常に高く、当院の患者さんの多くは65歳以上の高齢者です。大規模病院で高度医療が受けられることはもちろん、や当たり前ですから、これからは在宅療養も視野に入れた医療・看護体制の構築が重要です。そこで当院では、地域医療連携・相談・在宅支援業務を一つに組織した「患者支援センター」を立ち上げました。外来前から治療中、退院後まで、地域で連携して切れ目なく患者さんをサポートするシステムを導入しています。また、健康教育や出前講座などを実施し、疾病予防、悪化防止の面でも地域貢献を目指し、地域病院としての価値向上を図っています。

福島県立医科大学 会津医療センター附属病院で働くニチイのスタッフ

心から満足いただけるサービスを提供したい

外来の受付や会計、入院の診療費計算、DPC(包括医療費支払い)などの業務を担当しています。来院する患者さんの不安を和らげるために、常に笑顔で接することを心がけています。当院では高齢者の患者さんが多いので、よくお話を聞いて、患者さんが何を求めているのか、訴えているのかをきちんと把握したうえで、大きな声でわかりやすく説明するようにしています。患者さんが抱える病気や事情は一人ひとり違いますから、それぞれの患者さんに心から満足していただけるサービスを提供することで、病院の質の向上に貢献していきたいと考えています。



チーフスタッフ 田中 真美
チーフスタッフ 丸山 知美